

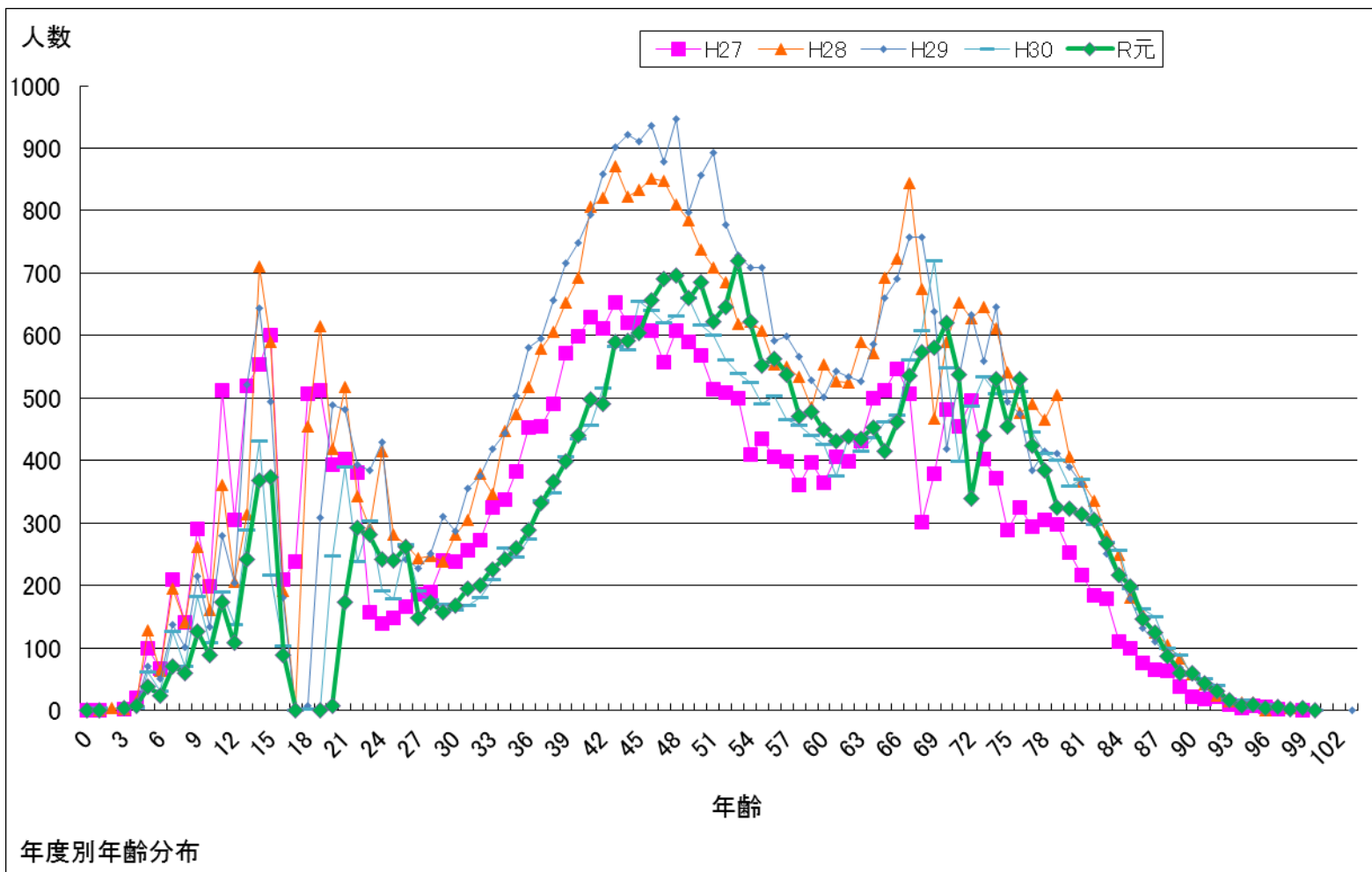
大気汚染医療費助成制度の患者データ年度推移

平成 27 年度から令和元年度の 5 年間の患者データについて、各項目別に年度毎の結果を比較した。

1 年齢分布

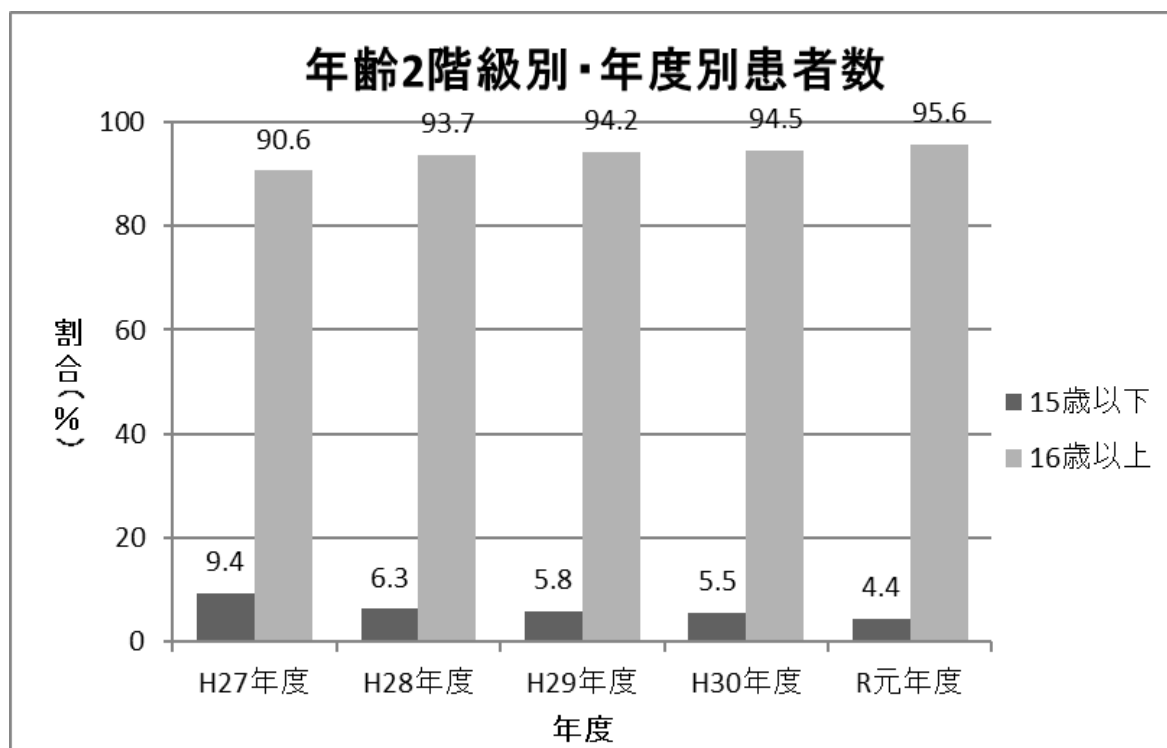
(1) 各年齢の年度別患者数

40歳以上の割合が高くなっている。一方で、15歳以下の割合は減少傾向である。



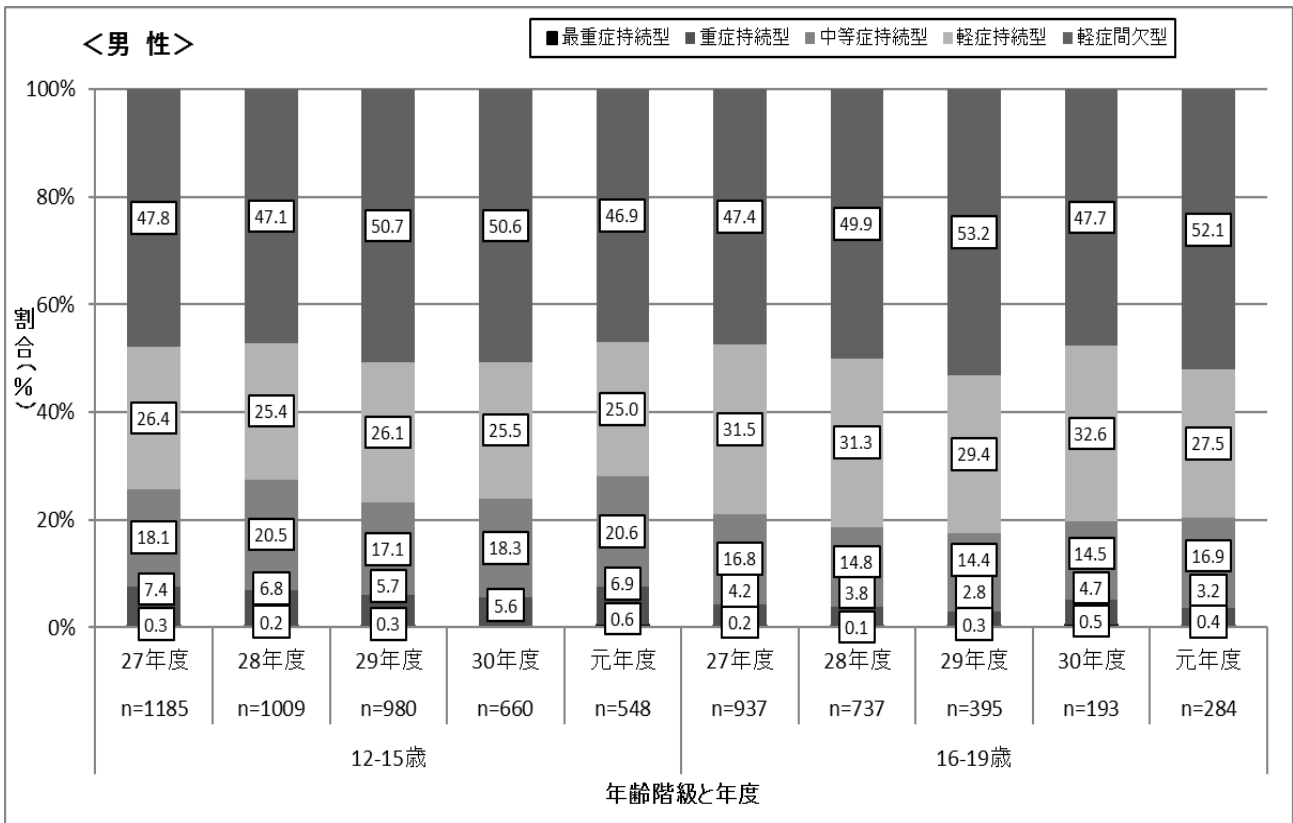
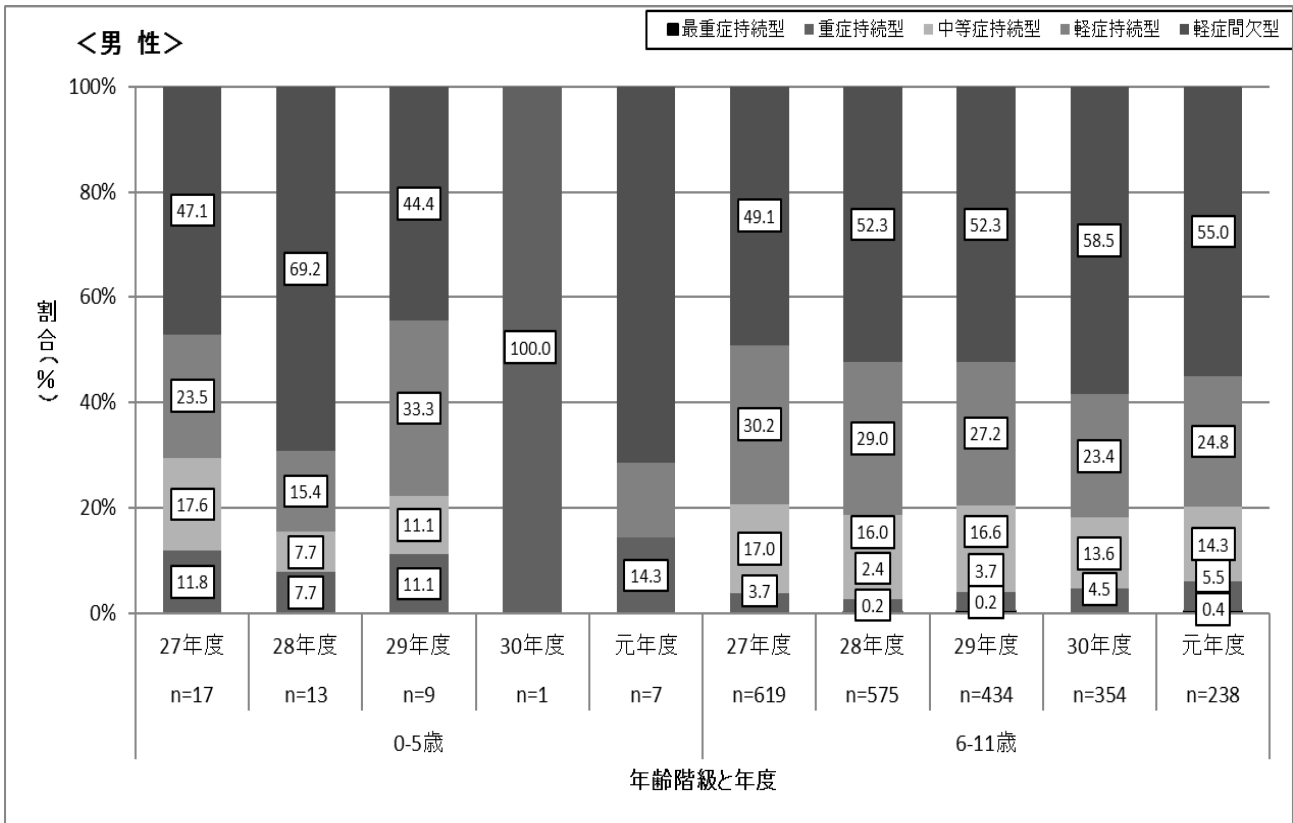
(2) 年度別の年齢階級別患者数割合

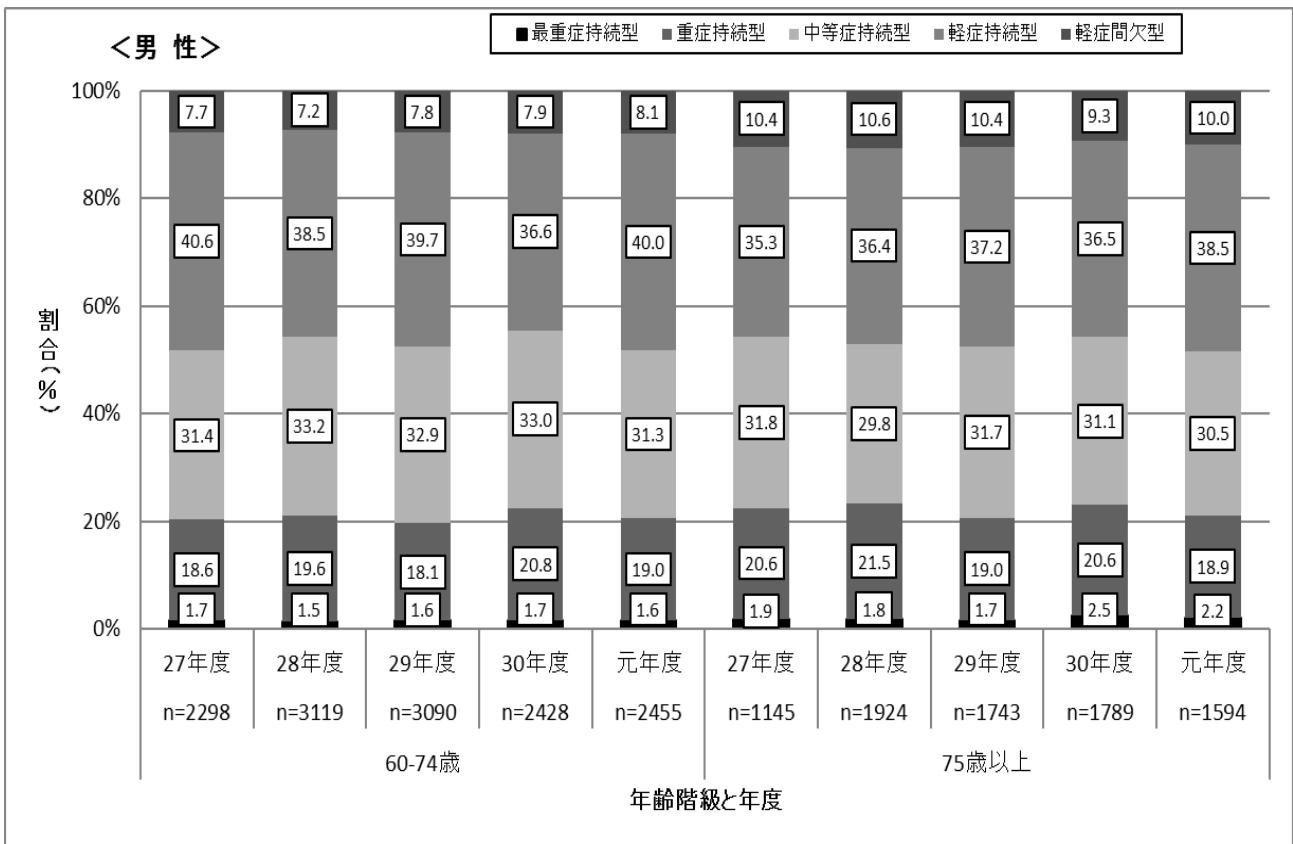
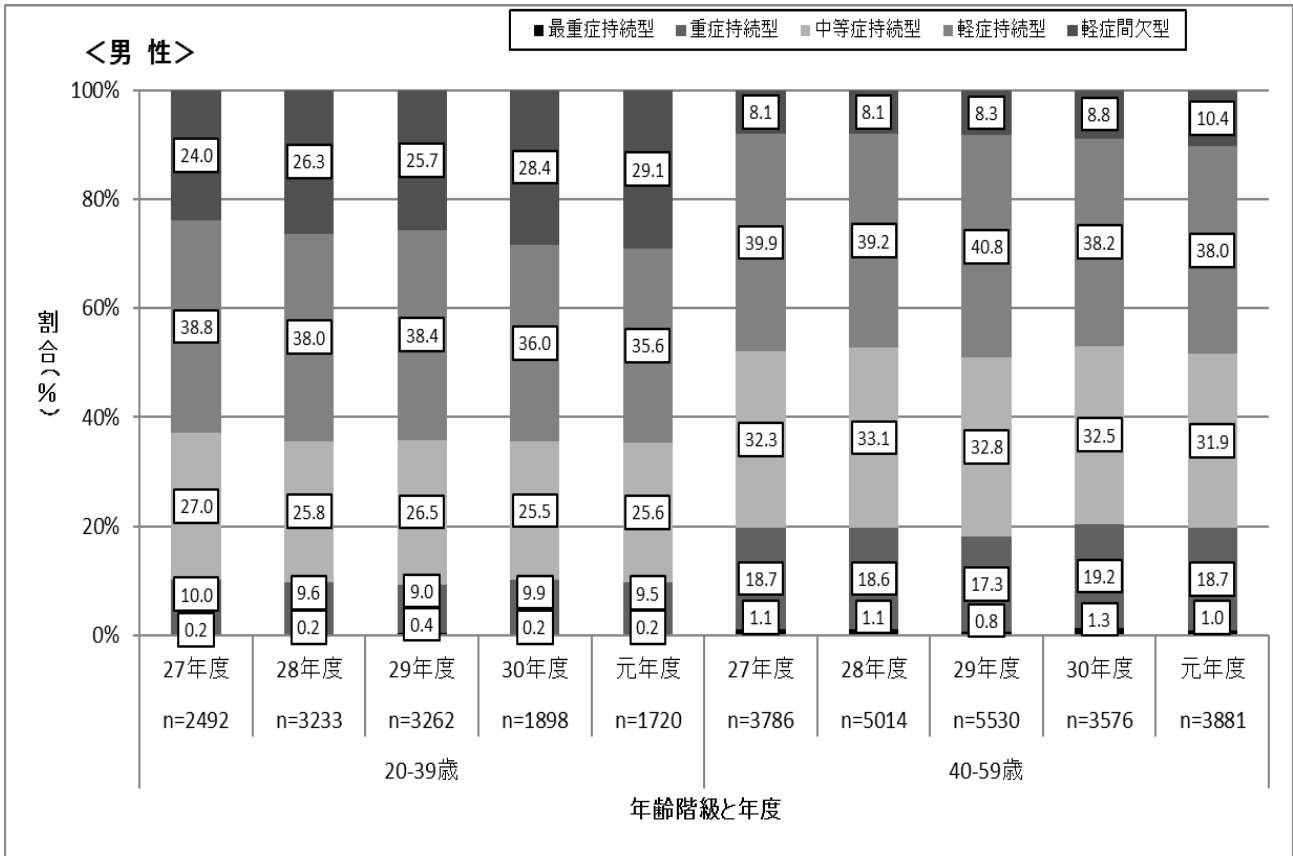
	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合
0-1歳	1	0.0%	0	0.0%	1	0.0%	0	0.0%	1	0.0%
2-5歳	23	0.1%	21	0.1%	14	0.0%	7	0.0%	11	0.0%
6-11歳	1007	3.2%	948	2.3%	708	1.7%	580	1.9%	407	1.4%
12-15歳	1889	6.1%	1591	3.9%	1650	4.0%	1047	3.5%	891	3.0%
16-19歳	1554	5.0%	1240	3.0%	682	1.7%	321	1.1%	464	1.6%
20-39歳	6122	19.6%	7812	19.2%	7962	19.5%	4533	15.1%	4253	14.3%
40-59歳	10765	34.5%	14408	35.4%	15836	38.8%	10936	36.5%	11736	39.4%
60-74歳	6576	21.1%	9166	22.5%	8868	21.7%	7320	24.4%	7187	24.1%
75歳以上	3251	10.4%	5538	13.6%	5090	12.5%	5226	17.4%	4869	16.3%
総計	31188		40724		40811		29970		29819	



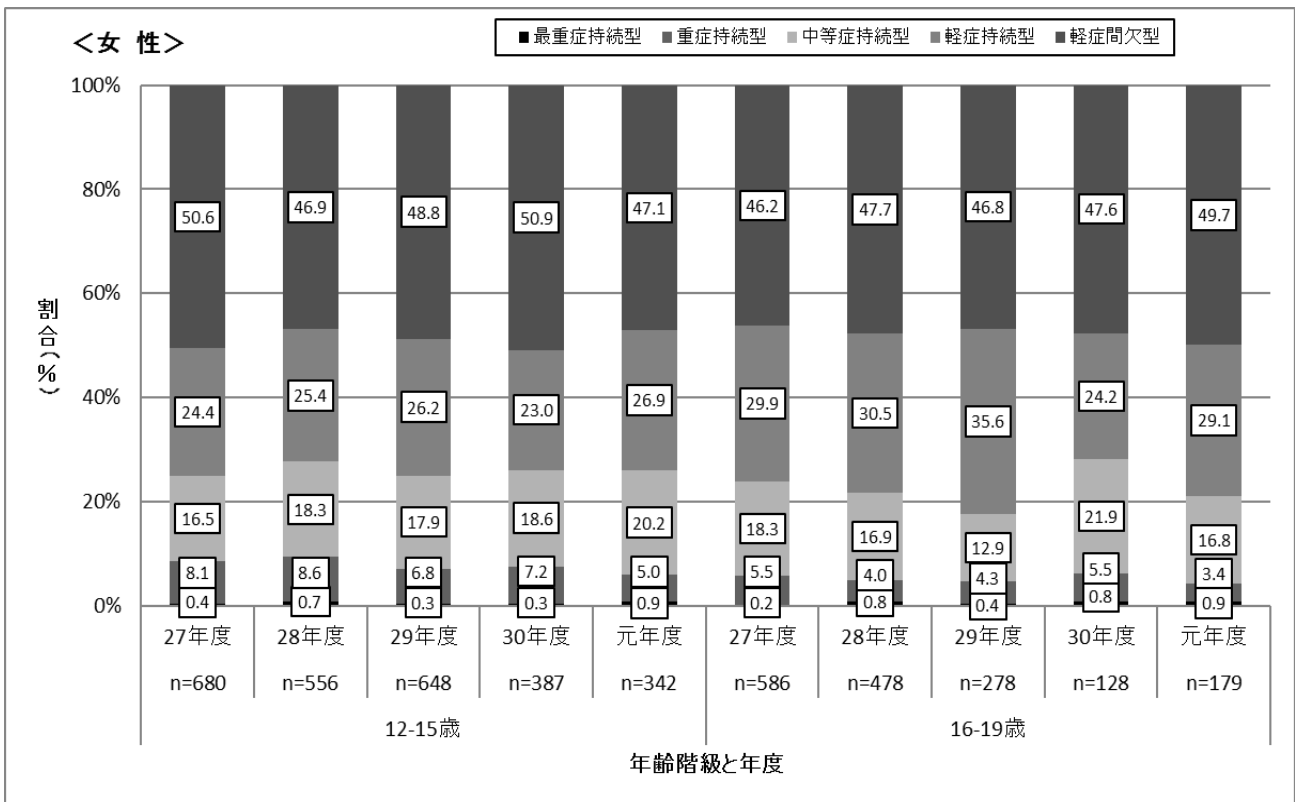
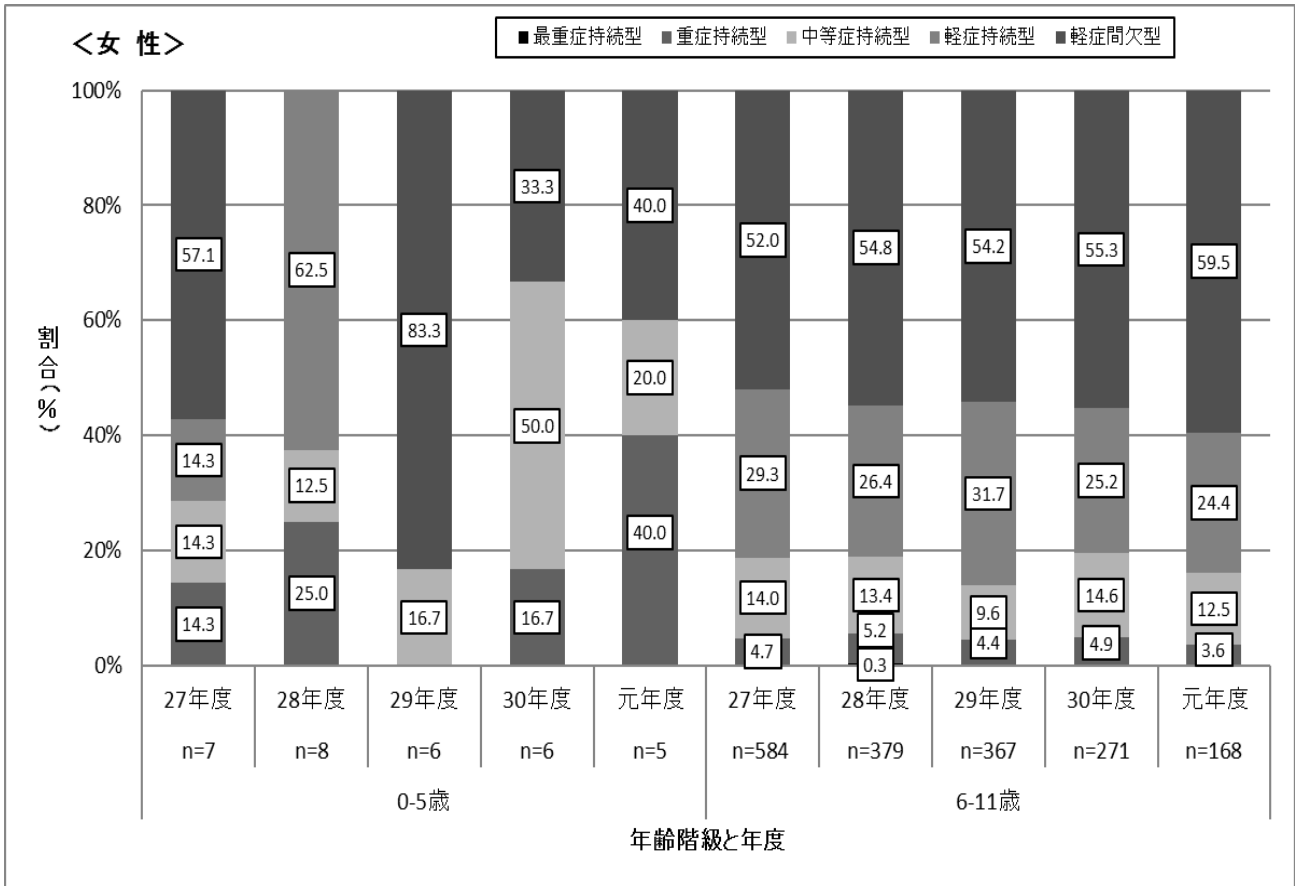
2 重症度分類

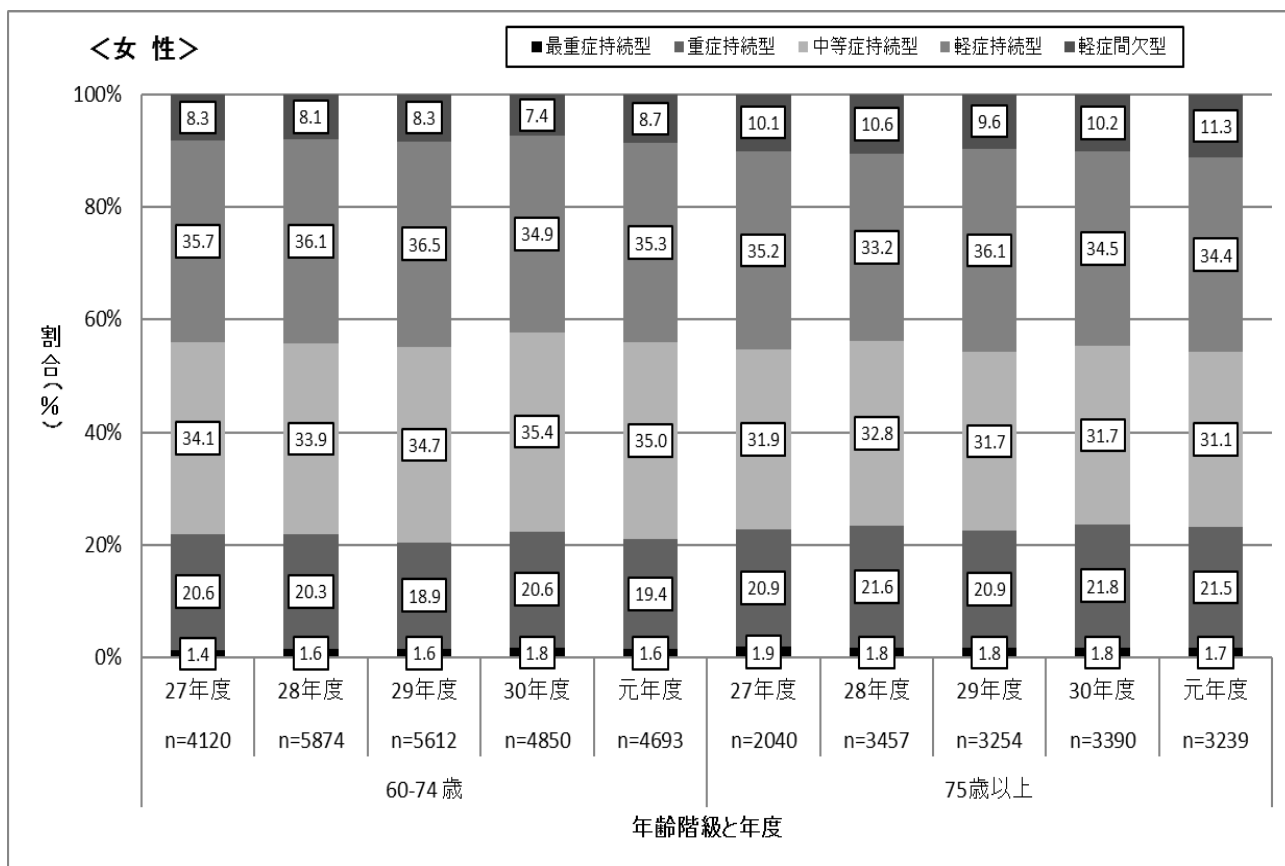
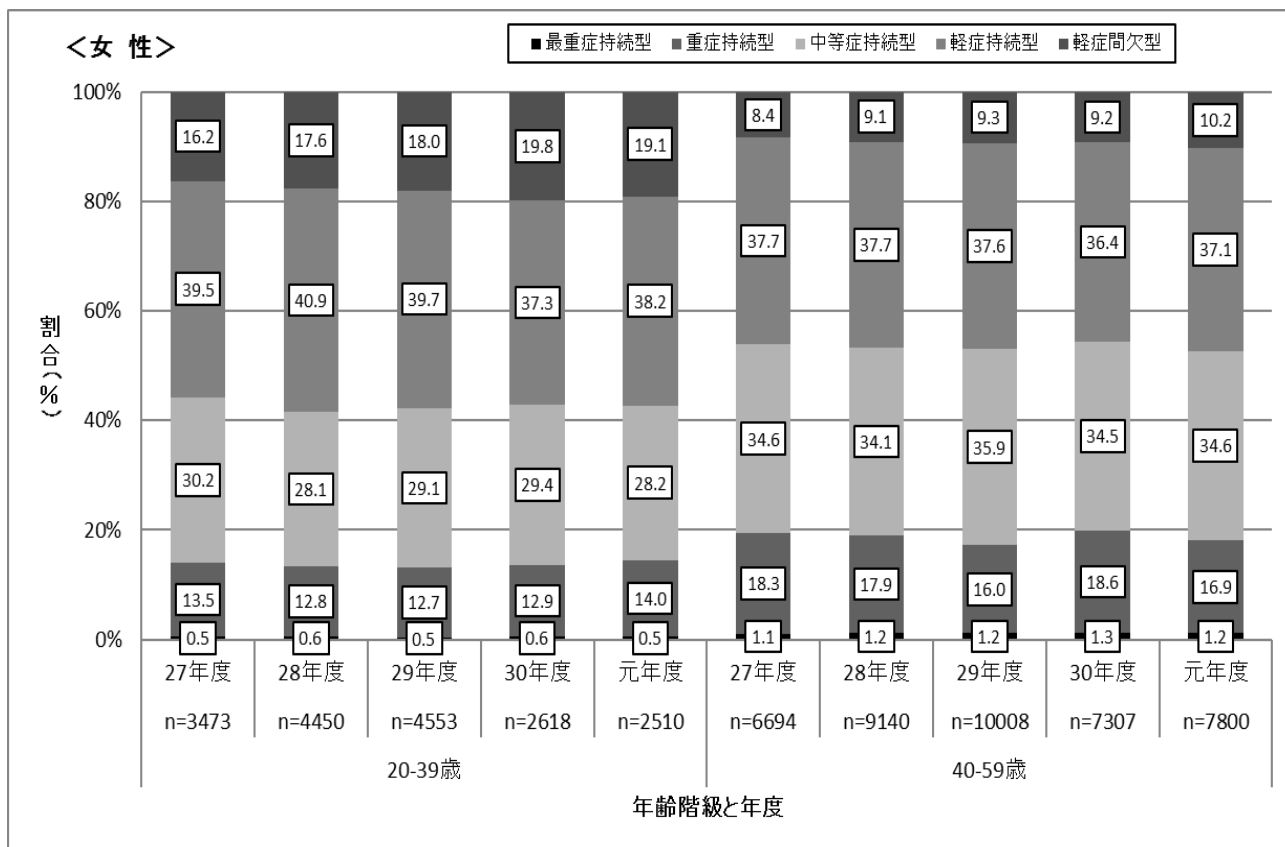
<男性>





<女性>





年度別年齢階級別の重症度分布について、H27年度以降、男女ともに大きな変化はなく横ばいに推移している。(n数が少数の「0-5歳」の階層を除く)

3 喫煙

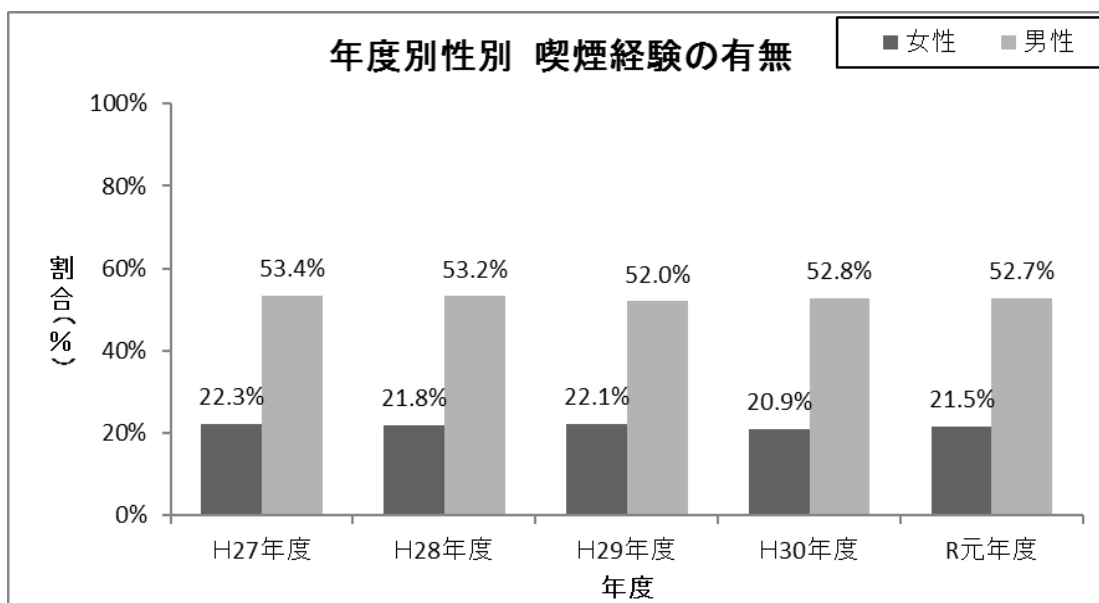
(1) 能動喫煙

a 全体

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度
喫煙経験あり	33.9%	33.3%	33.0%	31.9%	32.3%

全体の能動喫煙経験「有り」の割合は、ここ5年間でほぼ横ばい傾向にある。

b 男女別

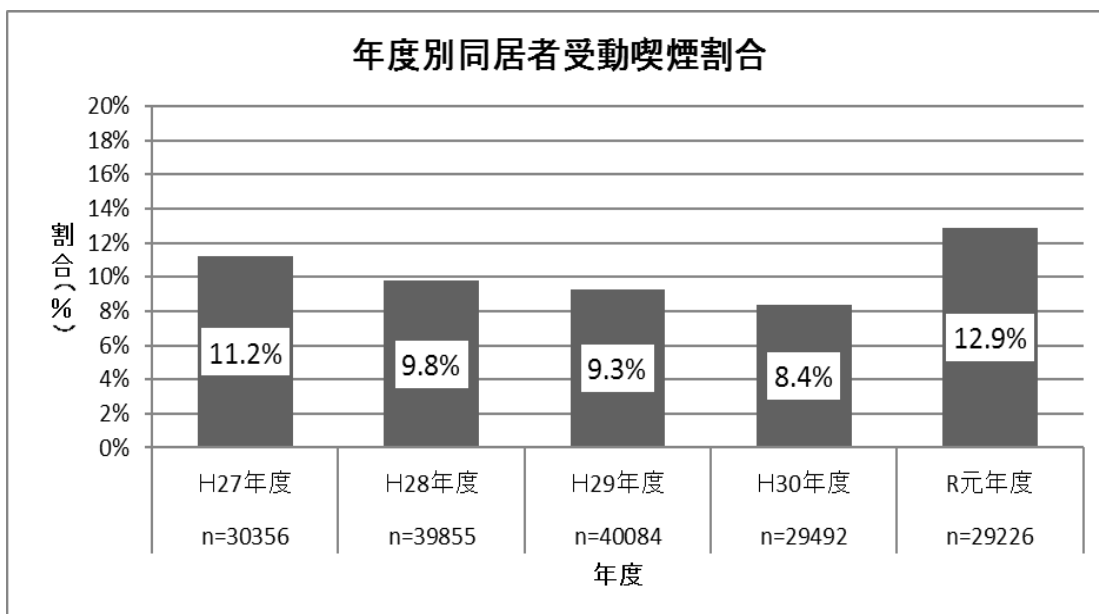


男女別で見た能動喫煙経験「有り」の割合は、男女ともにここ5年間でほぼ横ばい傾向にある。

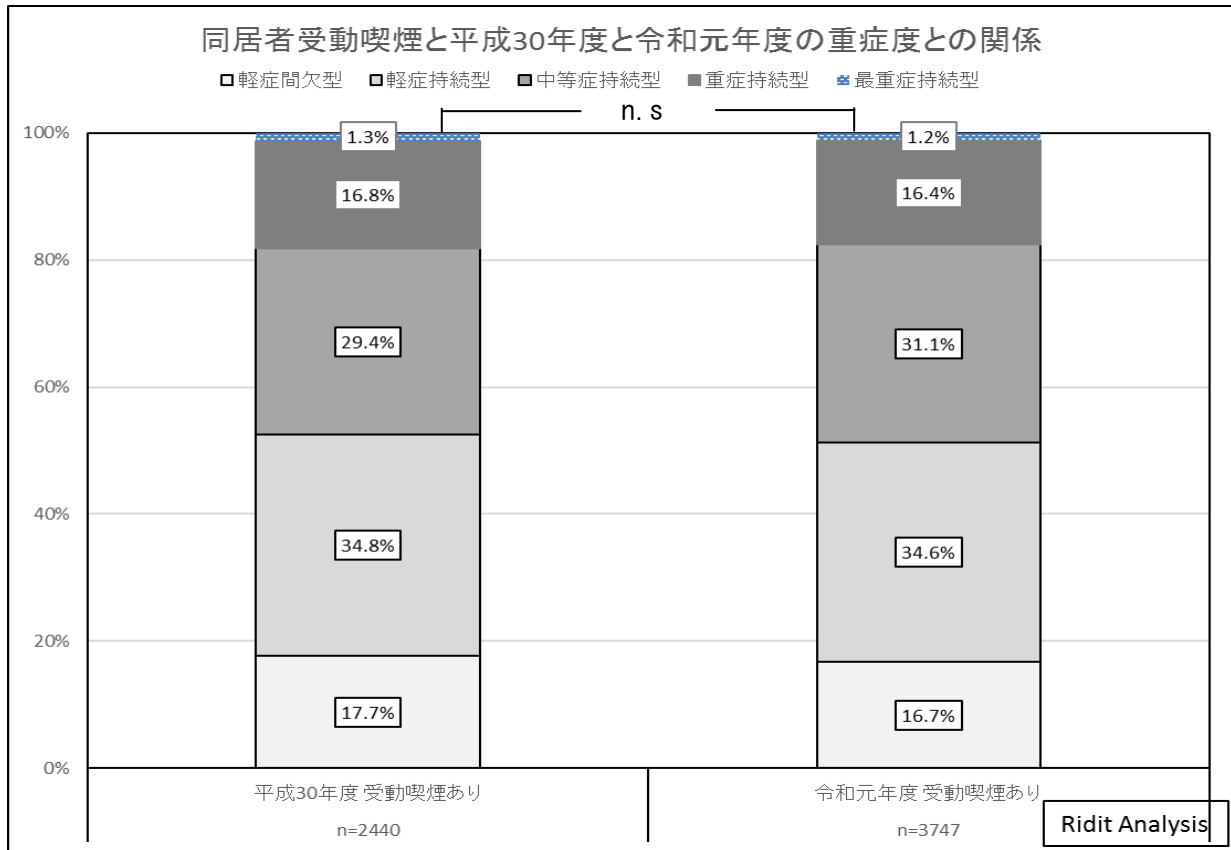
(2) 受動喫煙

同居者の受動喫煙(主治医診療報告書より)

※「同居者に喫煙者が(いない)・(いる)」で回答

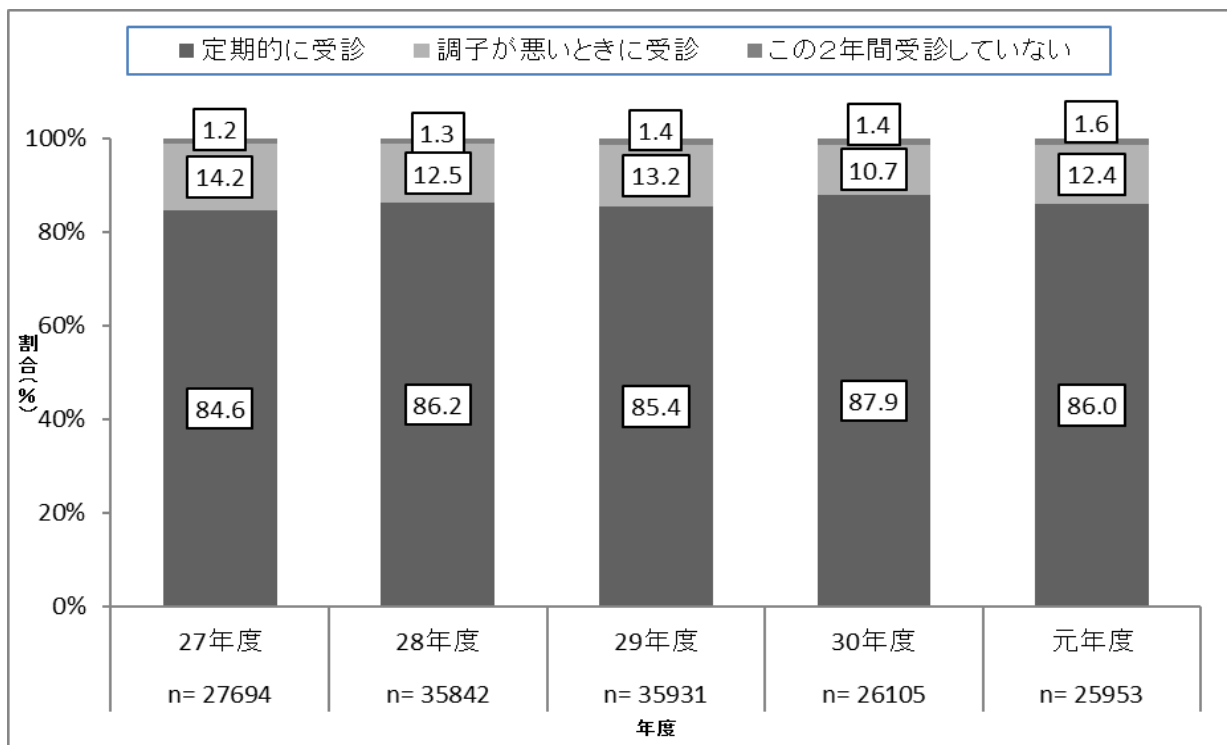


減少傾向であったが、令和元年度に増加に転じた。

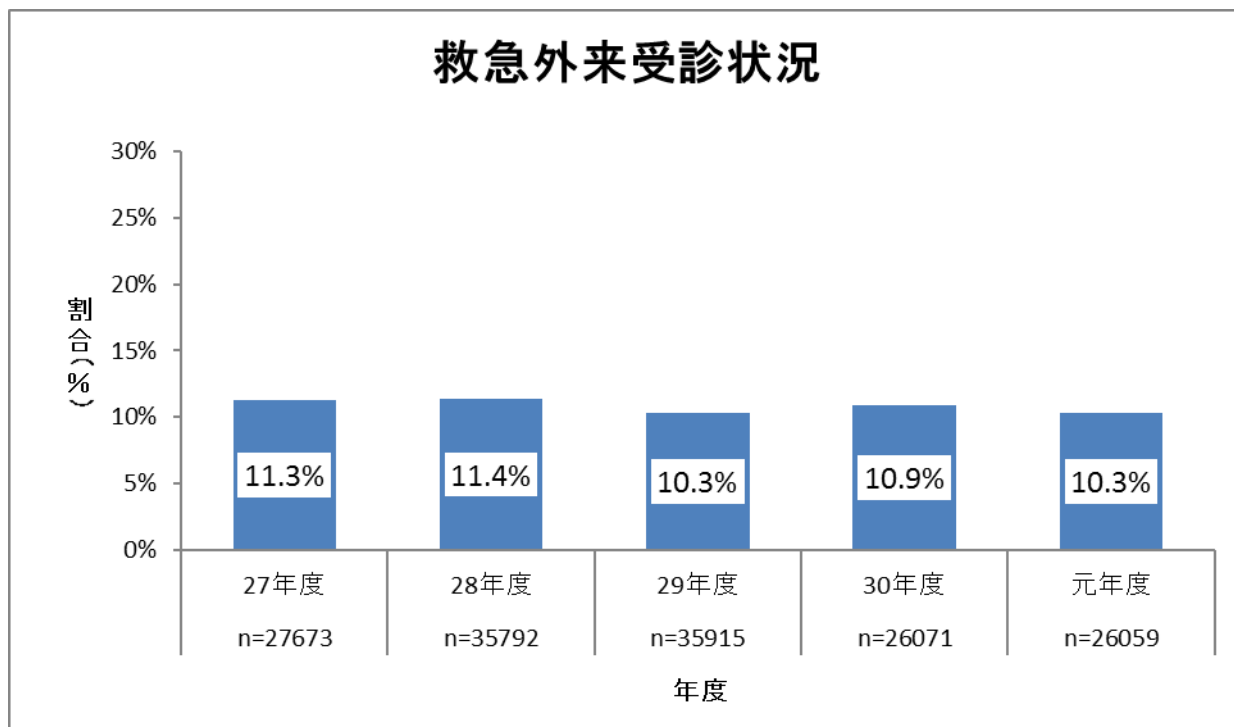


同居者の受動喫煙のある方について、平成30年度と令和元年度の重症度割合でリジット解析を行った結果、重症度での有意な差は認められなかった。

4 受診状況

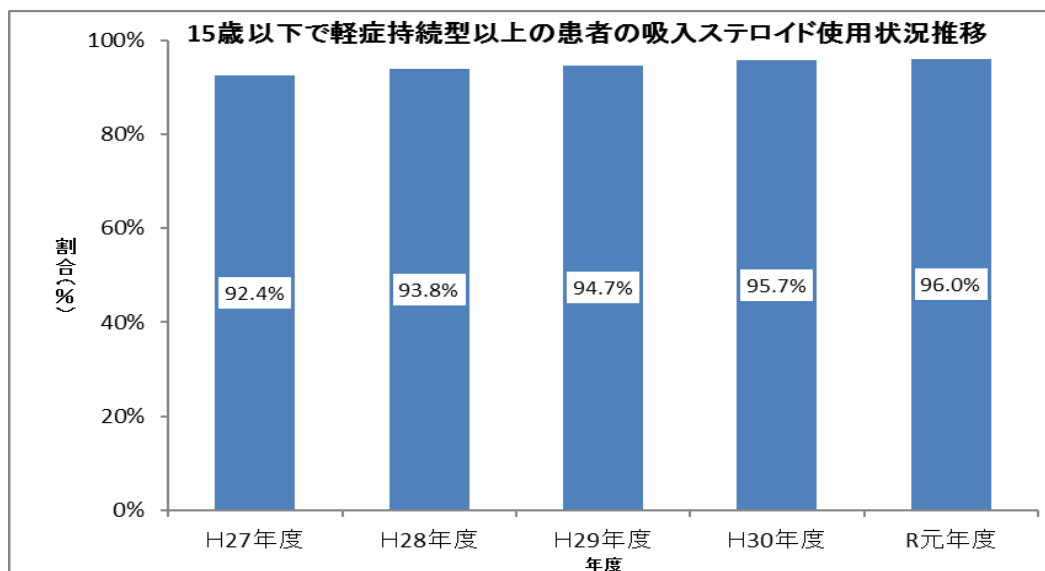


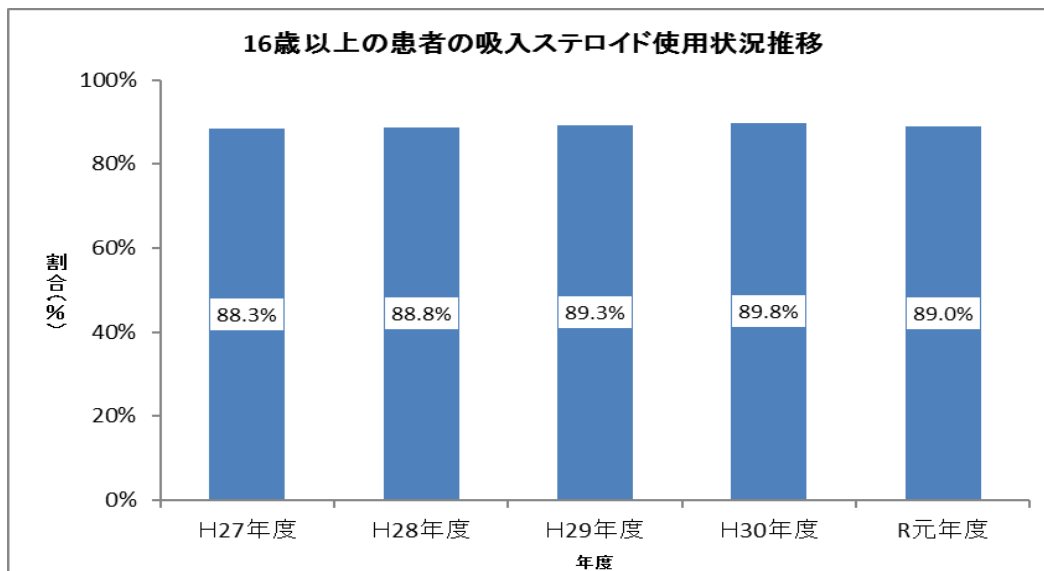
5 救急外来受診状況



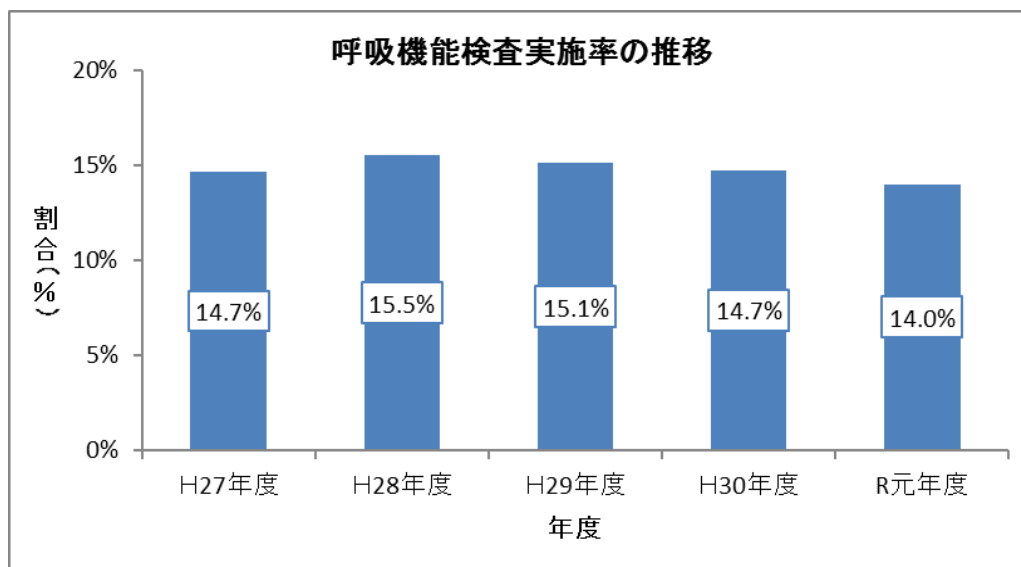
救急外来受診の割合は、ほぼ横ばい傾向である。

6. 治療薬（吸入ステロイド薬）





7. 呼吸機能検査実施率の推移



今後もぜん息の状態を把握することの重要性を普及啓発する必要がある。